平成28年度 若年技能者人材育成支援等事業

技能士活躍 好事例集

学校向け

〝世界で戦える技能〟を身につける

PROFESSIONAL SKILLS

一般社団法人全国技能士会連合会
中央技能振興センター
中央職業能力開発協会

はじめに

技能士とは、職業能力開発促進法に基づき昭和34年から実施されている技能検定に合格した者に与えられる称号です。

技能検定は、働く方々の技能の程度を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度で、働く方々の技能と地位の向上を図ることを目的に実施されております。これまでに600万人以上の技能士が誕生し、製造業、建設業、サービス業などの現場で活躍されています。

しかしながら、「ものづくり立国」として高い技術を誇ってきた我が国も、少子・高齢化による生産年齢人口の減少、若者のものづくり離れの傾向などにより、長年にわたって培ってきた技能を引き継ぐ後継者不足が大きな問題となっています。

本書では、このような問題意識の中、技能検定を社員の育成に活用し、技能の継承や働く人々の地位の向上、企業の成長等に繋げている事例を紹介しています。

若年技能者の育成に取り組まれる企業や各種業界団体等において、本書を参考にして頂き、企業の活性化・成長に貢献できれば幸いです。

また、教育機関においては、企業内における技能士の処遇や働きがい等を知ることにより、ものづくり産業への進む動機づけとなれば幸いです。

なお、本書の作成に当たり、ご多忙の中、取材にご協力いただきました関係の方々に対し、誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

平成29年1月

一般社団法人 全国技能士会連合会

中央技能振興センター

（中央職業能力開発協会）

Content 目　次

事例1 株式会社キサヌキ …… 4

事例2 有限会社栗栖工業 …… 8

事例3 三重金属工業株式会社 …… 12

事例4 赤田工業株式会社 …… 16

事例5 株式会社協和エクシオ …… 20

技能競技大会とは …… 24

都道府県技能士会・連合会一覧 …… 25

「技能検定」のご案内・「ものづくりマイスター制度」のご案内 …… 26

「技のとびら」技能検定制度等に係るポータルサイトのご案内 …… 27

技能検定制度とは…

働くうえで身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度です。詳細は26ページ「技能検定」のご案内、27ページ「技のとびら」ポータルサイトのご案内をご覧ください。

技能競技大会とは…

若者の就業意欲の喚起や円滑な技能継承のため、技能五輪全国大会をはじめとする各種競技大会が開催されています。詳細は24ページ「技能競技大会とは」をご覧ください。

PROFESSIONAL SKILLS

事例1

株式会社キサヌキ

会社概要

企　業　名：株式会社キサヌキ
〒882-0025 宮崎県延岡市粟野名町2015番地1
業　　種：家具製造業
設立年月：1987（昭和62）年5月
資　本　金：1,170万円
従業員数：30名（事務系13名、技術系17名）
事業内容：別注家具製作、店舗内装仕上工事、店舗企画、設計、施工、管理、取付家具の製作など。
主な製品・サービス等：店舗の企画、設計から施工、管理までトータルサポートが可能。

若い人が多く、しかもきちんと技能士の資格をとっている会社であることを強くアピール

代表取締役
木佐貫 浩司
（きさぬき こうじ）

若手の育成を計画し、会社を挙げて新卒者を採用

15年前に若手の育成を計画して、会社を挙げて新卒者を採用し始めました。多い年には5人ほど採用しましたが、離職率が高い状況でした。そこで若手を定着させるために、まずは資格取得や技能五輪全国大会出場への斡旋を第一に、目標をもたせることから始めました。現在では定着率も上がり、有資格者も年々増えてきました。

今年は2人を採用し、来年は3人の内定が決まっています。そのうちの1人は女性ですが、ものづくりが大好きで、技能五輪全国大会に出場したいという目標意識をもって入社してきます。これは新卒の求人が受付前に宮崎労働局の企画で企業説明会が開催され、高校生に直接会社の説明をできた成果だと思います。1人でも多くの若手を魅力ある職人に育てることに、引き続き力を注いでいきます。

■ 技能士数

職種名	特級	1級	2級	3級
家具製作（家具手加工）		2人	7人	
建具製作（木製建具手加工）		1人	1人	

■ 技能検定 年間受検者数

平成28年度		平成27年度		平成26年度	
受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
5人	4人	3人	1人	3人	1人

2級技能検定に合格すると手当を支給

最初は、現在のように資格を取得する人はなく、技能五輪全国大会の存在すら知りませんでした。設備も少なく休みもなかったので、会社の環境は良くありませんでした。まずは環境をつくらなければいけないと思い、この工場を今から8～9年前に増築し、設備を一新しました。現在は、技能検定に合格すると手当を付けます。工場では技能士がメインですが、技能検定以外にも有機溶剤作業主任者や木材加工用機械主任者など、いろいろな資格があります。それらに対しても1件あたりいくらというように、毎月手当を出しています。また、デスクワークをする管理技士などにも資格を取らせています。有資格者となって自分のスキルを上げることは他の人に認めさせる唯一の方法です。資格に負けない実力も常に発揮しなくてはなりません。また、資格手当が毎月支給されるので、このことが別の意味でもやりがいとなり、勉強にも励むことになります。技能検定準備のために、会社では終業後や休日の工場開放及び練習用材料費の負担をして応援します。

技能検定に限らずいろいろな資格取得を推進して、従業員のキャリア形成を

一度資格を取り始めると楽しくなり、合格すると嬉しくなり、「また次も」というようになっていきます。他人が認めてくれる喜びや手当の支給で給与が増え、努力が報われて達成感を抱くようになり、これが技術面ばかりではなく精神面でも育成ということに繋がっていると思います。有資格者は自信と誇りをもって胸を張って作業しています。会社としては、必ず3年以内に2級技能士を取りなさいというルールづくりをしているところです。ルールができて、そういうものだという雰囲気ができればうまく回転していきます。それが会社にとってのメリットにもなりますし、本人にとってもステータスになったり、喜びになったりします。技能五輪全国大会には、いまの工場長の宮﨑が最初に出場しました。宮崎県で30数年ぶりに家具職種で出場し、それから8年連続で出場していますが、そのうち2人は入賞できました。技能検定に限らず、いろいろな資格取得を推進して、従業員のキャリア形成というものに広く目を向けていきます。

工場を1課と2課に分け、技能士は2課に集中

新入社員が入社すると、仕事の一連の流れのうちスタートとなるパーツづくりのプレス作業を、1年ほどみっちりさせます。パーツづくりは1課で、木取りや組立ては2課の職人がやります。1課では家具づくりの3割を占めるパーツをつくります。こういった作業はベテランや技能の高い人でなくてもできるので、この部分は新人がやれれば良いと考えています。このパーツを作るところまでが基礎となります。1課での作業が上

達した人が技能検定に挑戦し、さらに難しい作業をするために2課で家具を作り上げる作業を学びます。このため、技能士は2課に集中するようになっています。

技能士の資格が看板になって バイヤーも信頼

特別に注文を扱う「別注屋」という工場のイメージは、普通にはないと思います。既製の家具屋というのは大きな設備があり、比較的流れ作業で動いていますが、「別注屋」というのは狭い工場でつくっている場合が多いです。大きな工場もなければ、大きな企業もないです。そういう意味では、当社を見たお客様の多くは驚かれます。工場の広さと設備、それ以上に一番驚かれるのが、若い従業員が多いということです。百貨店のバイヤーやこの業界の上場会社の発注担当の方々がお客様として来社します。みなさん全国を回るのですが、他の工場ではどうしても50歳代～70歳代の職人さんばかりです。そうした中で、若い従業員が多い工場が新しく見えるのではないでしょうか。その影響か、最近ではお客様からの引合いも随分増えてきました。若い人が多く、しかもきちんと技能士の資格を取っているところを見ると、若くて上り坂にある会社というイメージができると思います。私はこの点を強くアピールしています。お客様からすると価格もそうですが、品質も問われます。若い従業員では技術が到達していないのではないかと思われがちです。しかし、彼らは技能士の資格を持っていますと伝えると、1級技能士の方なら大丈夫ですね、と言われます。昔は、技術は見て覚えろ、盗めと言われていましたが、今はきちんと教育をして技能を伸ばせば、若くても優れた技能を持つ人ができる時代です。それをバイヤーの人たちは見ているのでしょう。バイヤーの心配があっても、技能士という看板でそれを証明してくれるし、若くても大丈夫だという証明になっています。そういう意味では、やはり第三者の評価はとても重要です。また、技能五輪全国大会への出場も格好のコマーシャルになっています。今後は、1人でも多くの若者が、この業界を継承してくれるようなシステムづくりをしていきたいです。

株式会社キサヌキで活躍する
－ PROFESSIONAL SKILLS －
技能士
〝世界で戦える技能〟

製造部工場長
宮﨑 秀幸（みやざき ひでゆき）

技能検定を受検したことは自分にとってものすごい重要な転機、若い人たちにぜひ受検を勧めたい

製造部全体の管理とともに 後輩への指導が仕事

現在、工場長として製造部全体の流れを把握していかなければならない立場にあります。受注したものに対して納期がこれくらいだから、この品物に対してはいつまでにどこまで完成していないといけないとか、ここまでしかできていないから少し急がせないといけないとか。いろいろと管理しなければなりません。それともう1つ大事な仕事は、後輩への指導です。指導の対象となるのは20歳代の人たちです。工場では34歳の人が一番の年長者です。普通の会社でいうと中堅どころの人たちがいないので責任重大です。20歳代というと、これから技能検定を受けようとする人たちです。こうした後輩たちへの指導は、終業後とか休日などです。技能士の試験準備のために出社してくる人もいます。頼まれたら私も出てきます。ほとんど毎日のように。自分が頑張って勉強してここまで来ただけに、ここにいる若い後輩たちを引っ張りあげるのは楽しいです。どんどん覚えてきて、このままだと自分も追い越されるのではないかと思うときもあります。そこで自分自身ももっと努力するようになります。私自身、第29回技能グランプリに出場する予定です。次の段階として、再び若手のお手本になるように頑張りたいと思います。

技能検定に合格したことで 強い自信と責任感

技能検定の受検のきっかけは、社長から受けてみないかと言われたことでした。社長としては、腕も技能もさることながら、資格も持っていなければいけない、それを数多く持つことが企業の価値だと思っていたようです。技能検定に合格する前の自分と合格した後の自分とどこが一番違うかというと、やはり自信がついたことです。それともう1つは、責任感といいますか、1級技能士という肩書があるので、これじゃいかんなというものも出てきます。もう1ランク上の仕様というか、丁寧な仕様にしなければいけないと考えています。そうすると外に出たときに製品が褒められ、信用ができて、会社の利益になります。私自身は、家具製作技能士1級のほかに、一昨年には建具製作技能士の1級を取りました。技能検定の準備では、実技よりも学科が大変でした。会社で過去問題の段取りをしてもらい、家で勉強するような形でしたが、1級になると、木の歴史をはじめ、ヌーボー調やロココ調などのデザインの歴史など、学校で習わないことがたくさん出てきます。技能検定を受検したことというのは、自分にとってものすごい重要な転機になったと思います。ですから、若い人たちにはやはり受検を勧めたいと考えます。

続けることが大事、 辛くても頑張って続けてほしい

下積み時代はつまらないと思うかもしれませんが、家具製作は、経験を積み、学べば学ぶほど楽しくなるところがあります。私の下積み時代は、職人さんの下で怒られてばかりでした。「なんでできないんだ」とか、そんな感じですね。しかし、なんでできないのかと言われたら、逆にできるようになりたくなります。教わらなくてもできるぞ、という気持ちでした。5時に仕事が終わると、先輩の職人のつくったものをよく観察してみました。こうやってつくるのかというのを自分で確認していました。そうするうちに、自分の形をつくり上げることができたのだと思っています。この点は、後輩にも教えてあげたいことです。最初はうまくできなくても、練習を続けていけば少しずつでもできるようになっていきます。ですから続けることが大事です。辛くてもすぐに辞めようと考えないで、頑張って続けてほしいです。私自身が、教えてくれる先輩がいない中でここまで来られたのは、この仕事にやりがいがあり、好きだったからだと思います。やりがいを感じ、仕事が好きになればしめたものです。

事例2

有限会社栗栖工業

会社概要

企　業　名：有限会社栗栖工業
〒757-0216 山口県宇部市船木1236番地
業　　種：建設業（とび業）
設立年月：1985（昭和60）年9月
資　本　金：300万円
従業員数：42名（事務系7名、技術系4名、技能系31名）
事業内容：建設業専門工事業（とび）としての工事全般の施工。
足場仮設工事、橋梁架設工事、土木・建築一式工事、
鉄塔・煙突工事、鉄骨工事、解体工事全般。
主な製品・サービス等：足場仮設工事を主体として、プラント内のメンテナンス用足場仮設工事を主体とするとび工事全般、および公共工事における土木工事並びに建設工事での足場仮設工事、解体工事一式。

技能士が活躍することによって、企業としての認知度や信頼性は確実に向上している

会長
栗栖 龍男
（くりす たつお）

技能士在籍者数は山口県内で一番

当社は、とび工事全般を施工している専門工事業者です。とびという伝統ある文化の継承事業や最新技術をいち早く取り入れており、行動力のある会社です。若手技能士の育成にも尽力しています。

若手の育成にとって、技能検定は非常に良い制度だと認識しています。社内では、技能検定の受検料、練習用資材の提供を行うことで、技能士の資格取得の推進と合格率の向上を図っています。当社の従業員の場合、技能検定では実技で失敗する者はほとんどいないのですが、学科試験で失敗する者が多いです。学科試験を再受検する場合でも、受検料は会社で出すことにしています。

また、受検準備のために、終業後や休日に会社を開放して練習の場所を提供したり、練習用資材を自由に使用できるようにしています。受検料の負担はさすがに会社の従業員に対してだけですが、受検のための場所や練習用資材の提供などは、協力業者で受検を希望する者も対象にしています。その結果、おかげさまで、とびの技能士在籍者数は山口県内で一番となりました。現在、常駐職人、協力業者を合わせた技能士の数は、とび2級技能士16名、とび1級技能士30名となっており、登録鳶土工基幹技能者は13名、足場の組立等作業主任者56名、鉄骨の組立等作業主任者20名などとなっています。

■ 技能士数

職種名	特級	1級	2級	3級
とび		12人	3人	4人
管理職で技能検定合格者数		5人		

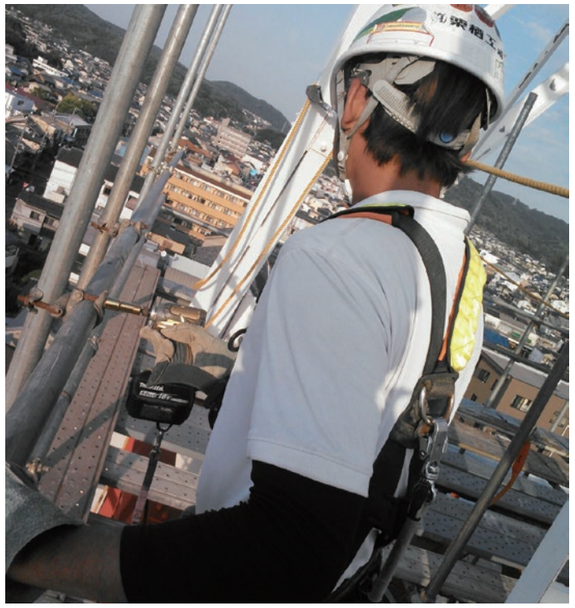
■ 技能検定 年間受検者数

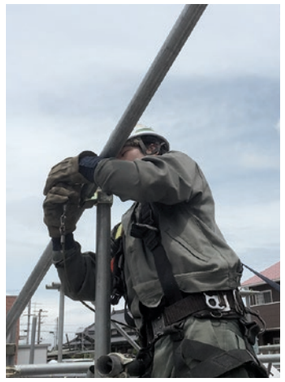
平成28年度		平成27年度		平成26年度	
受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
11人	4人	13人	6人	8人	4人

学科試験をクリアできるように指導することが当面の課題

当社の場合、職長と名の付く者の8割以上は1級技能士の資格を持っています。したがって、社内では、1級技能士でなければ職長にはなれないという認識を共有しています。会社としては、できるだけ2級の技能検定に合格してから1級を目指すように指導しているのですが、実際には1級の技能検定を受検する前に2級の技能検定を受検することを避けてしまう傾向が強いです。なぜかというと、学科試験が関門になっているからのようです。

技能検定の受検を志している者は、実技試験については自信満々なのですが、どうしても学科試験が苦手なようです。2級の技能検定の学科試験を4回受けた者もいるようです。この場合でも、会社で受検料を負担しています。学科試験をクリアできるように指導していくことが当面の課題です。とにかく、会社としては、技能検定を受検する以上は成績優秀者の表彰を目標として、積極的に技能検定の受検を支援しているところです。





技能士の力で行政や元請業者の認識を変える

山口県では、10年以上前から、国土交通省の推奨する技能士の現場常駐制度を、県内の公共工事において活用することを推奨してきました。そして、とび技能士の現場常駐が実現したのは、9年前に山口県技能士会連合会の陳情を受け入れてくれたためでした。

県の土木部では、足場を施工するのはとび技能士ではなく、受注業者が足場の専門業者に行わせるものと誤認していました。公共工事の特記仕様書のうち技能士欄の足場の項目に、「とび」と明記してもらうことが実現し、その成果として、とび技能士を抱える業者への足場の発注が集中することになったのです。

一方、県の土木部や元請業者の間では、山口県内の業者には橋を架設する仕事ができる職人＝とび技能士がいないと誤認されていました。橋梁補修用の足場架設工事の受注は以前からありましたが、当社では、橋を架ける技能を持っていることを元請に伝えきれていませんでした。しかし、技能士の現場常駐制度や技能士の表彰などで認知度が上がるにつれて、橋梁工事も受注することができるようになりました。橋梁補修用の足場架設についても、難易度の高い工事は県外の業者でないと無理とされていましたが、当社の技能士がそれを超える技術を考案して短期間で施工を完了したことから、元請業者の認識も大きく変わりました。

当社では1級技能士の資格が職長の必須資格

山口県内の公共工事では1級技能士の現場常駐制度が実施されています。その効果として、9割以上の現場から技能士の指名が入るようになっています。1級技能士の資格があると、主任技術者としても登録できるため、当社では職長の必須資格としています。

当社では1級技能士でなければ職長も張れないし、技能士の資格はどうしても必要にならざるを得ません。そして、技能士の資格を取れば、日当、つまり基本給を上げています。その点では、従業員の向上心や意欲をかなり引き上げる要因になっていると思います。

技能士が活躍することによって、企業としての認知度や信頼性は確実に向上しています。また、安全と品質の代名詞としても技能士の存在は重宝しています。

若手の従業員は技能五輪全国大会での入賞が目標

当社では、23歳までの若手の従業員には、技能五輪全国大会での入賞を目標にさせています。技能五輪全国大会の選考の時期が近くなると、われこそはと出場の意欲と姿勢を積極的に示してくる者もいます。こうした意欲のある者がたくさんいることもあって、技能五輪全国大会では毎年入賞し、連続受賞記録を更新しているような状況です。

社内で若い人たちが積極的に技能五輪に挑戦しようとしていることは、非常に良いことだと思います。また、技能検定の受検者には、成績優秀賞を狙って受検させています。一方、40代、50代になると、指導者としての顕彰の機会がありますが、30代の人たちに対する顕彰の機会がありません。そこで、30代の従業員には、山口マイスターや全技連マイスターを目標に努力させています。

自分で考えた事を体を使って実現させていく仕事にこそ本当の魅力

建築現場や土木現場の仕事に興味を持つ若い人は多いと思いますが、そうした若い人たちは、傾向としてどうしても管理や現場監督などの分野に関心を持ってしまいます。しかし、本当に面白くてやりがいや達成感を得られるのは、そのような管理や監督の仕事ではなく、とびの仕事のように現場で泥まみれになって体を使って働くところです。やはり自分で考えた事を体を使って実現させていく仕事こそ、本当の魅力があります。この点をぜひ若いみなさんにもわかっていただけるとありがたいです。

有限会社栗栖工業で活躍する

－PROFESSIONAL SKILLS－

技能士

〝世界で戦える技能〟

労務・安全部長
松村 秀治（まつむら ひではる）

技能検定の重要さというのは、統一された基準の中で技能を評価するところにある

子どもの頃から職人に対してあこがれる

子どもの頃に、縁側をつくる工事を見ていて、ものをつくることのすごさ、面白さに感激したことがあります。また、父親も鉄工所を経営していましたので、ものづくりに対しては自然に自分にとっても身近なものという印象がありました。こうしたことから、職人に対する一種のあこがれのようなものがありました。

アルバイトで鍛冶屋の火の番をする仕事をしたことがありましたが、これが職人の世界に足を踏み入れた最初だったと思います。工業高校を卒業したあと、いろいろな仕事に取り組んでみましたが、20歳くらいの頃に、とびの仕事に就きました。たまたまその会社が職業訓練校をやっていましたので、生徒からやがて指導者となり、現場と指導を兼務するような形でした。私の場合、20歳代から十代の人たちに技術指導をする立場にいました。

職長は会社の代理人として努力している

私が技能検定を受けたのはこの会社に来る前でした。先輩方が受けていたので、自分に順番が回ってきたという感じでした。私の場合には、学科はそれほど心配はなかったのですが、実技については練習する機会が少なかったため、とても不安でした。その頃勤めていた会社では、この会社のように練習用の資材を提供してくれることもありませんでした。

いまの会社では、職長が1級技能士でなければ現場が務まりませんから、職長は会社の代理人として努力しています。会社全体を見るときには、自分自身が苦労をしてきましたので、若い人たちに対しても、苦労しているところは十分にわかりたいと思います。自分自身が負けん気が強いので、現場で衝突してしまうことも多いです。そういう意味での苦労は随分経験してきたつもりです。最近では現場に出る機会が少ないですが、若い人たちが現場から帰ってきたとき、何か元気がなかったりするようなところがあれば、できるだけ声をかけるようにしています。

良いものを組み上げたときには、一種の芸術的な作品のように仕上がる

とび技能士は、多岐にわたる特殊な作業をこなさなければなりませんので、頭を使い体を使う仕事です。その意味で、日々勉強が必要な仕事です。達成感とか充実感とかといった言葉では簡単に表せない感動があります。

図面がある場合も、図面がない場合もあります。また、図面どおりにいかない場合というのもよくあります。したがって、組み方はその人のイメージや才能によるところが大きく、人それぞれに組み方が違ってくることがよくあります。特に、良いものを組み上げたときには、一種の芸術的な作品のように仕上がりますので、それだけ大きな達成感を味わいます。

技能士でなければ仕事を任せられない時代が来ている

技能士でなければ仕事を任せられないという時代が来ていると思います。自分たちの技能がやっと認められたようにも思います。これからもこの技能を若い人たちに伝えていかなければ、やがては衰退してしまうと思います。そこで大切なのは、やはり技能検定だと思います。技能検定の重要さというのは、統一された基準の中で技能を評価するところにあると思います。こうした統一された基準による客観的な評価というものをきちんと身につけたうえで、はじめて個人個人のセンスや才能に応じた組み方が活きてくるものと思います。

ものづくりをとおして自分を活かせる

ものづくりにはやりがいがあります。このやりがいというものが若い高校生の皆さんにどこまで理解してもらえるのかわかりません。しかし、このものづくりをとおして自分を活かせるというところがあります。この自分を活かせるというところに、まさしくやりがいというものがあるのだと思います。何もないところから形をつくり上げていくことというのがものづくりで、このものづくりの喜びを知ることが大切だと思います。

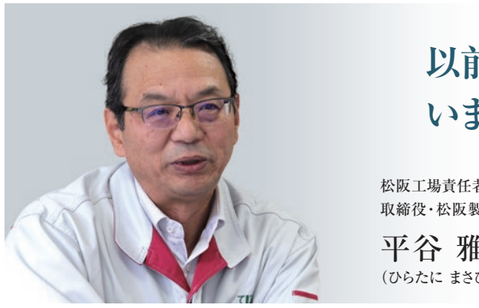
事例3

三重金属工業株式会社　松阪工場

会社概要

企　業　名：三重金属工業株式会社松阪工場
〒519-2148 三重県松阪市御麻生薗町1244-1
業　　種：製造業
設 立 年 月：1954（昭和29）年2月
資　本　金：7,000万円
従 業 員 数：370名（事務系106名、技術系161名、技能系103名）
事 業 内 容：金属プレス加工・射出成形加工を主体とする自動車用電装部品の製造、金属プレス用金型・射出成形用金型の設計および製造
主な製品・サービス等：金属部品、成形部品、複合部品

完全な型をつくろう、完全な部品をつくろう、そして完全な人格をつくろう



以前から技能検定受検を積極的に推奨、いまは多能工が活躍

松阪工場責任者：
取締役・松阪製造部部長
平谷 雅弘
（ひらたに まさひろ）

当社は、金型づくりからスタートしていますので、金型製造を大切にしています。金型をつくる技能士がたくさんいて、その技能士を大切に育てていくようにしています。私の入社前から、技能検定の受検については積極的に勧めていたようです。入社当時は、技能士の資格を1つ持っているのが普通でしたが、今はいろいろな職種の技能士の資格を持っている人が多くなり、「多能工」として活躍しています。

また、当社では、人づくりのために技能検定の受検を推奨し、体力づくりのためにラジオ体操を勧めています。このラジオ体操についても検定（公認指導者資格認定試験）を受け、資格を持っている者がいます。社長自身、ものづくりにこだわるように、体力づくりにもこだわっているのです。社長からは、「完全を目指すように」と言われています。完全な型をつくろう、完全な部品をつくろう、そして完全な人格をつくろうというのが会社の方針です。

■ 技能士数

職種名	特級	1級	2級
機械加工	1人	10人	17人
放電加工	3人	13人	6人
金属プレス加工	1人	6人	7人
仕上げ	3人	13人	8人
プラスチック成形		2人	7人
機械検査	2人	2人	7人
機械・プラント製図		9人	10人
合計	**10人**	**55人**	**62人**
管理職で技能検定合格者数	8人	27人	8人

■ 技能検定 年間受検者数

平成27年度		平成26年度		平成25年度	
受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
33人	9人	36人	10人	30人	8人

技能検定合格者数を毎年目標として設定

技能士の数については、毎年何人合格してほしいというように、目標を決めて、それに基づいて計画を立てて技能教育を行っています。毎年目標に近いところに達成しており、特級、1級の合格者数名ずつ出ています。

社内の雰囲気として、技能士の資格を持っていないと格好悪いと思うくらいの環境をつくっています。また、間接部門に従事する者も、技能検定を受検しています。

技能検定の受検準備は、自分の時間で、競技大会などに出場するための準備は会社の残業時間内でしています。受検料は自分の費用で、合格すれば会社から支給することにしています。

会社としては、技能検定は基本技能であり、一種の通過点であるとみなしています。技能検定は60点で合格しますが、60点の出来では不良品で使い物になりません。100点でなければ商品になりません。100点で合格しなければだめです。ものづくりとしては、そのような気持ちで取り組んでもらわなければなりません。

1年間の基礎教育の後に配属、配属後がスキルアップの機会

努力しない人はついてこれないところがあります。会社の経営を考えると、それぞれのスキルを上げてもらわなければなりません。努力をして、上を目指し、役に立つ人材とならなければ、高い報酬を支払うことはできません。当社は、もともと家電業界から自動車業界に転換しました。競争が非常に激しい自動車業界で勝ち残っていくためには、特徴のある技術と技能が絶対に必要です。

入社した最初の1年間は基礎教育をします。やすりがけから始めて、放電加工、研磨、フライス加工などいろいろな工程について順番に教育します。1年たってから試験をしてレベルに達しているかどうかを見ます。そのあとに、それぞれの部署への配属を決めます。

それぞれの部署に配属されてからは、スキルアップに努め、技能検定に挑戦して合格すれば、朝礼のときに表彰します。また、競技大会に出場して優秀な成績を修めれば、毎年1月の会社の式典で表彰します。また、社内で職務等級を定めており、技能検定で合格したレベル（級）に相当する職務等級が適用され、昇給や賞与に反映します。

当社は実力主義、やる気があって ものづくりが好きであることが重要

当社では、大学卒業者であろうと、高等学校卒業者であろうと、まったく関係ありません。実力主義です。やる気があって、ものづくりが好きで仕事を続けていける人であれば、トップになれます。そういう会社です。自分でやりたい仕事があれば、スキルを上げるための基礎となるものを条件に失敗しても挑戦させます。また、会社というのはいつどうなるかわからないところがありますので一人前の腕、つまり社会で通用するような技能を身につけてもらい、会社の外ででも通用する人材にと考えています。そういう意味もあって、技能検定を積極的に勧めています。

技能五輪を目指す若い人を育成し 当社生え抜きの現代の名工を輩出したい

一人前になって独立するのであれば、会社としても仕事を発注するという形で支援する姿勢でいます。とにかく腕を上げてもらって、どこへ行っても通用するような人間になってもらいたいとの思いです。定年制についていえば、基本は65歳ですが70歳以上でも良いとなっています。現在、一番年長の人が76歳になります、現代の名工となられた方で大手電機メーカーを定年退職後に来てもらった人です。このような現代の名工となるような人材を、当社の生え抜きとして養成しなければならないとの思いがあり、今年は初めて全技連マイスター2名を輩出することができました。

また、将来的には、技能五輪全国大会などを目指す若い従業員を育成したいと考えています。技能五輪に挑戦してみたいという志を持った人であればぜひ当社に来ていただきたいとの思いです。

三重金属工業株式会社 松阪工場で活躍する

－PROFESSIONAL SKILLS－

技能士

〝世界で戦える技能〟

松阪製造部金型製造課次長
佐藤 孝輔（さとうこうすけ）

特級技能士を5つ、1級技能士を8つ取得

製造責任者・技能士として自分の能力を 惜しみなく発揮したい

技能士については、特級を5つ、1級を8つ取得しました。いまは、製造課の責任者としての役割を発揮していかなければならないというのが、当面の大きな課題です。製造責任者として、そして技能士として、入社以来長い年数をかけて身に付けてきた知識と、技能検定によって培ってきた知識と技能を活かして、より良い金型をより早くより安くつくるために、惜しみなく自分の能力を発揮していくことが自分に与えられた役割だと考えています。

製造責任者となってからは、まわりの人のレベルが上がってくるのを非常に嬉しく思うようになりました。自分一人で技能検定に挑戦しているときは、まわりのことなど気にせず自分のことだけを考えてやってきましたが、最近では、自分の部下が技能検定に合格したり、競技大会で入賞したりするのを見ると嬉しいです。

最初の検定合格がうれしくて 明確な目標を持つ気持ちが芽生えた

私のときは、高等専門学校卒業者は卒業後2年たたなければ技能検定を受検できませんでした。最初の受検は周囲の雰囲気で自動的に取り組んだようなところがありましたが、合格したことが嬉しくて、次の年からは、明確な目標をもって何歳までにこうなりたいという希望が芽生えてきました。金型の場合は、いろいろな職種の検定が受けられるので、あれもとりたいし、これもとりたいという意欲がわいてきて、何年たったらここまでいこうという目標をもって取り組むようになりました。

技能検定は、2級から特級までかなりの数を受検しましたが、会社から練習のための機械と材料は与えられていましたので、あとは自分の時間を使って練習をすることができました。いろいろな職種の受検を続けてこられたのは、自分のスキルを上げたいという想いとともに、合格したときの喜びというものが自分を大きく動かしていたのだろうと思います。また、受検を決めると、実技試験がいつで、学科試験がいつだという日程がわかりますので、それに向けて自分自身を調整していくのが好きなのだろうと思います。

どこまで自分の技能を向上できるか チャレンジし続けてほしい

自分の部下や若い人たちには、せっかくものづくりの会社に入って、いろいろな職種にも挑戦できるところにいるわけですから、どこまで自分の技能を向上できるかチャレンジし続けてほしいという想いがあります。そして、いま私自身が置かれた立場からは、いろいろな職種の技能士の資格を取得しやすい環境づくりをしていくことが大事だと考えています。

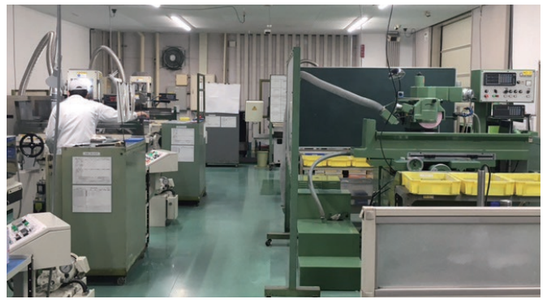
私の場合、30歳になったあたりから、40歳までに特級を5つ取得するという目標を立てていたのですが、この目標を達成してしまうと次にやるべき目標がなくなってしまいました。これからは、自分がこれまで身に付けてきた知識と技能を駆使して、会社でより良い金型をつくりたい、ほかの会社が真似のできないような優れた金型をつくりたいというのが目標となっています。

ものづくりの喜びを知ることが大切 ぜひ味わってもらいたい

私が担当しているのは金型の仕上げという職種ですが、金型を組み立てて作業をし、金型を組み上げたあとプレス機でトライをして製品を作って確認するところまでが仕事の範囲になります。このプレスでトライして製品をつくり出すときは、世の中で自分だけが目にすることができるもので、自分が最初に見ているのだということを実感すると大きな喜びを感じます。設計者は設計の仕事で別な喜びがあり、加工の人は加工の仕事で別な喜びがあるでしょう。ものづくりでは、そういう喜びを知ることが大切だと思います。

また、技能士になると、学生の頃には考えられなかったような難しいものができるようになります。いろいろなことをやり続けることによって、会社の中でも、ほかの人ができないような難題などをクリアできるようになって、さらにものをつくる喜びが増えたり、人から頼られたり、感謝されたりする喜びが出てきます。こうした喜びというのは、技能を持っているからこそ得られるものです。将来ものづくりの道へ進もうとする若い人たちには、この喜びをぜひ味わっていただきたいです。

その人その人によって向き不向きというものがあるかと思いますが、会社の中にもたくさんの職種があるので、どれか1つは必ず自分に合った職種というものが見つかると思います。そこをぜひチャレンジしてほしいです。



事例4

赤田工業株式会社

会社概要

企　業　名：赤田工業株式会社
〒399-8602 長野県北安曇郡池田町大字会染6108-75
業　　種：製造業
設立年月：1964（昭和39）年8月
資　本　金：1,000万円
従業員数：49名（事務系7名、技術系5名、技能系37人）
事業内容：電子顕微鏡をはじめとする分析機器、半導体、液晶装置の部品の受託加工・自社製品を開発し、インターネットによる販売。
主な製品：電子顕微鏡等の真空部品、フレーム、架台。真空応用装置、機器の真空部品、フレーム、架台。セミオーダー型真空要素製品、の企画、販売、製造。

全員が1級技能士の会社になるのは、挑戦してみる価値があるのではないか

従業員全員が技能士になって他社との差別化を図る

代表取締役・経営役員
赤田 彌壽文
（あかだ やすふみ）

2000年はじめに起こったITバブル崩壊により、当社の売上げは半減しました。これを機に、父から私へと社長交代がありました。そのときに考えたのは、他社との差別化をいかに進めるかということでした。そこで着目したのが、従業員全員が公に認められた資格を持つこと、つまり全員が技能士の資格を取ることでした。これによって、他社との差別化ができると同時に、従業員に対しても金銭的な財産だけでなく技能といういわば知的財産を与えることができるのではないかと考えました。

従業員全員が1級技能士の資格を持っていたらすごいだろうな、という単純な考え方から始まりました。全員が1級技能士の会社になるというのは、挑戦してみる価値があるのではないかと考えたわけです。これを2001年頃から取り組み始めました。現在、事務系のパート社員と新入社員を除き、91%の取得率で、他にも溶接評価試験やQC検定も取得しています。

■ 技能士数

職種名	特級	1級	2級	3級
機械加工	2人			
機械加工（普通旋盤）			5人	6人
機械加工（数値制御旋盤）		2人	1人	
機械加工（フライス盤）			1人	3人
機械加工（数値制御フライス盤）		7人	3人	
機械加工（マシニングセンタ）		1人		
機械検査	1人	1人	4人	21人
機械プラント製図			1人	2人
工場板金（機械板金）			5人	
仕上げ（機械組立仕上げ）				2人
鉄工（構造物鉄工）		3人	4人	
機械保全			1人	
管理職で技能検定合格者	1人	4人	3人	

■ 技能検定 年間受検者数

平成28年度		平成27年度		平成26年度	
受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
9人	5人	24人	10人	20人	9人

技能士には技能手当を支給

当社では、技能士の資格を取得すると、わずかですが各級に応じて技能手当を加算することにしています。たとえば、3級700円、2級2,000円、1級4,000円というように。しかし、将来は、1人でいろいろな職種の技能検定を受ける人が増えてきて、資格を持ってはいるけれど実際の業務には携わっていないというケースが出てくると思います。そのようなときには手当だけを付けても意味がないので、2職種か3職種くらいまで技能士の資格を取得した場合については、等級に応じた手当を支給したいと考えています。また、技能検定の受検料については、当社では1回分だけは会社が負担しています。

技能検定のための練習は、材料と工具と機械については会社で提供していますが、練習作業はすべて時間外でやってもらいます。学科試験の準備なども、時間外に会社の休憩所でやっている光景を目にしたことがあります。そういう雰囲気が社内に広がると会社としてもありがたいです。

仕事も勉強もチームワークでやることが非常に大事

今の会社の中では、どちらかというと自分のことは自分でやれよという雰囲気が強いのが現実ですので、今後は改めていきたいと思っています。近い将来、若い人たちが先輩となって、積極的に後輩を指導、育成しようという雰囲気をつくってくれることを期待しています。技能検定の準備勉強にしても、1週間に1回か2週間に1回でもよいから、一緒に勉強しようという雰囲気ができてくれるとありがたいです。

会社としては、仕事も勉強もチームワークでやることは非常に大事なことだと理解しています。しかし、気を付けなければいけないことは、どこまで教えればよいかということです。あまり教えすぎてしまうと、教えられるほうは受け身になってしまいますし、逆に、背中を押されないと前に進めない場合もあります。この分岐点をうまく見極め教育・指導する必要があるのではないかと思います。

全員が100%資格取得を目指して取り組んでいる

2001年から、全員で技能士の資格を取得しようと取り組んできたのですが、未だに取得できていない者もいます。それは、職歴の長い幹部です。もう定年を過ぎたのだから取らなくてもいいやという考え方になっているわけです。これではまずいと思い、やはり全員が100%資格取得を目指すということで取り組んでいます。あと1～2回受ければ、パート従業員以外全員が3級を含めて技能士の資格を取得できる予定です。

当社では、技能士の資格を取得した者としていない者との仕事の分担はしていません。また、同じ技能士でも、3級の人よりも2級の人、2級の人よりも1級の人のほうがレベルが上でしょうから、より上のレベルの人のほうが難しい仕事もできるし、同じ仕事なら早くできるでしょう。しかし、だからといっ

て、難しい仕事をレベルの上の人にばかりやらせていては、レベルの低い人に難しい仕事をやらせる機会がなくなってしまいます。時間がかかっても、レベルの低い人にも難しい仕事に挑戦してもらう必要があります。この点はうまくバランスを考えていかなければいけないところですが、現状は、現場の上長の判断に任せて仕事を振り分けています。

採用にあたっては専攻を問わない

当社では採用にあたって、普通科であっても農業科であっても卒業した学校の専攻は問いません。どのような方が来られても、一定程度のところまでは会社のシステムで引き上げてやれます。本人の習得能力が高ければどんどん吸収できるはずです。会社として従業員の意欲を高めるための取り組みもします。私の考えている教育方法は、初級の教育では最低限知っていなければいけない基本的なことを集合教育などでカリキュラムを組んで教育し、そこから先は最初に学んだ基本的なことを手掛かりにして、自分で考え自分で答えを出し、主体的に行動することです。今後より改善しながら、充実した教育カリキュラムにして行きたいです。

高等学校卒業者には技能五輪を目指させる

高等学校を卒業する製造職場希望の新卒者の採用では、普通科の出身であっても、はじめからハードルを高くして、技能五輪全国大会を目指すことを前提にしています。会社見学の時に、定年退職まで会社に勤めている間は上位資格を取る努力を続けてもらい、特に23歳までの時期に若手技能者の頂点に挑むことができる人材を採用したいと話します。そして、先輩社員と面談させて、自分が何を目標にして努力しているかも話してもらいます。応募者には、高い意欲の人材を求めていることをきちんと伝えるようにしています。

今年入社してきた女性従業員も、旋盤の職種で技能五輪全国大会を目指しています。女性の場合には結婚や出産を機に退職するという問題がありますが、仮に結婚によって退職しても、子育てなどが一段落したあとに再就職した場合などでも、一度身につけた技能はいろいろな面で活かすことができるはずですから、長期的な視点から見ればけっして無駄にはならないと考えています。

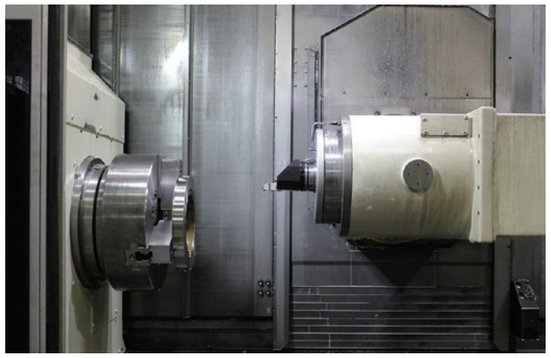
赤田工業株式会社で活躍する
－ PROFESSIONAL SKILLS －
技能士
〝世界で戦える技能〟

製造部機械課NC班　経営幹部班長
渡辺 朋岳（わたなべ ともたけ）

技能検定は自分ができるということの証明になり、モチベーションを上げることにもつながる

最初の技能検定で社長から喝を入れられ奮起

私は農業高校の出身ですが、この会社に入ったきっかけは、農業よりも機械でものづくりをしたいという漠然とした希望があり、進路担当の先生に相談したところこの会社のことを紹介され、いろいろと教えていただいたことでした。正直に言って、入社したときはそれほど期待されている様子ではありませんでした。面接のときにも、自分にとってあまり得意ではない分野に入ってきたと見られているように感じていました。その意味では、社長が要求しているような高いモチベーションを持って入社したわけではありませんでした。



技能検定についても、入社してから社長や先輩たちから触発されて取り組むようになっただけでした。入社して2年目のとき、地元の工業高校の生徒たちと一緒に3級の技能検定を合同で受けました。私たちの場合は練習する時間もなかったので仕上げるのが高校生よりも遅かったのです。そのときに、社長から喝を入れられ、自分自身でものすごく悔しい想いをしました。社会人が高校生よりも遅いのは格好悪いですから、このことがきっかけとなって奮起しました。

後輩や部下に技能を伝えていかなければいけない

技能検定を目指しているときには、自分のことだけを、つまり、自分がいかに早くつくれるか、うまくつくれるかということだけを考えていました。しかし、いまは班長になりましたので、後輩や部下に対して、技能を伝えていかなければいけないですし、自分の持っていた仕事を受け渡していかなければいけません。自分のことだけでなく、部下や後輩のことも一緒に考えていかなければいけない立場にあります。そのための1つとして、やはり技能検定に取り組んでもらうことは非常に良いことで、大事なことだと思っています。

仕事を完成させたときの喜びと楽しみを見出せることがものづくりにとって大切

難しい仕事に取り組むことになると、夜遅くまで仕事をせざるを得なくて辛いときもありますが、上司や先輩に相談しながら難しい仕事をこなしていくことは、加工屋としては一番やりがいがあると感じています。仕事のあとの達成感というのは、やっとこの仕事から解放されたという気持ちと、よくこんな難しい仕事ができたなあという気持ちとが一緒になったような感じです。

きちんと寸法どおりにつくる、間違いなくつくるということが当たり前のこととなっていますが、それを完成させたときの喜びが積み重ねられ、それがやがて楽しみとなり、ものづくりを続けていけるのだと考えています。この喜びや楽しみを見出せることがものづくりにとって大切なことだと思います。

最初に志したことは、できるだけ最後までやり抜けるように努力すべき

これまで旋盤をやってきましたので、これからも続けていきます。今年は少し畑の違うNCフライス盤についても2級を取得しましたので、この技能をもう少し高めていきたいと考えています。また、旋盤についても、まだ特級を受検できる年齢ではないので、受検できる年齢になったら特級に挑戦したいと考えています。

目標をもって入社してくる若い人たちは、おそらく自分の理想とする姿、たとえば技能五輪に挑戦する姿などを描けているのだろうと思います。しかし、実際に入社してみると思い描いていたのと異なることのほうが多いですが、最初に志したことは、できるだけ最後までやり抜けるように努力すべきです。

技能検定は、自分ができるということの証明になり、モチベーションを上げることにもつながりますので、積極的に取り組んで欲しいです。工業高校に在学している生徒なら、私のように農業高校から入社してきた者と比較するとプラスになっているところが多いと思います。工業高校の生徒さんたちは、入社する前に早くから3級の技能検定を受検してもよいのではないでしょうか。ゼロから始めるよりは、早めにスタートしたほうがいろいろな判断材料が出てくると思います。

事例5

株式会社協和エクシオ

会社概要

企　業　名：株式会社協和エクシオ
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-29-20
業　　種：電気通信工事業
設立年月：1954（昭和29）年5月
資　本　金：68億8,800万円
従業員数：3,632名（事務系170名、技術系3,462名）
事業内容：1.エンジニアリングソリューション（通信インフラ事業、電気・土木・環境インフラ事業）、
2.システムソリューション（ネットワークインテグレーション、システムインテグレーション）
主なサービス：日本全国の通信インフラ設備の構築・保守、オフィスビルやマンション等の電気・空調設備から新エネルギー関連設備等の構築・保守。通信事業者、官庁・自治体、一般企業等のネットワークシステムの設計・構築から各種ソリューションの提供、SOA等の最新技術を駆使したトータル・ソリューションサービスの提供。

積極的なやる気をもってさえいれば、やがて技能五輪の全国大会や国際大会などにも挑戦する機会がくる

中央技術研修センタ所長
佐川 三千男
（さがわ みちお）

研修センタでの指導体制を強化

当社で情報配線施工技能検定に最初に取り組んだのが平成16年でした。これは、技能五輪全国大会への参加資格を取得するという目的から、２級及び1級を目指して取り組むというものでした。しかし、これだけでは不十分なので、会社全体の技術の底上げを図る意味で、全員に少なくとも３級の技能検定に合格してもらいたいという目的から、この研修センタでの指導体制を強化しました。その結果、技能検定には、延べ671名が受検し、合格したのが427名となりました。

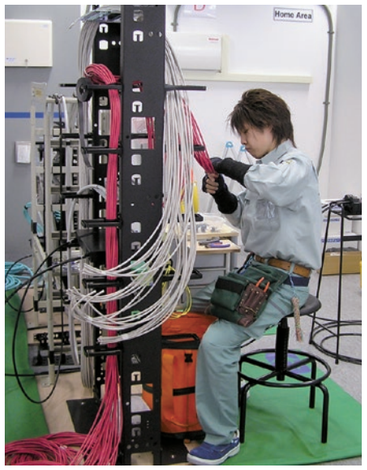
技能検定の２級、1級となると難易度がかなり高くなり、そう簡単に合格できませんが、２級については、３級を取得してさらに挑戦しようという意欲のある者を積極的に支援し、技能五輪への出場もかけて、取り組ませています。

■ 技能士数

職種名	特級	1級	2級	3級
情報配線施工		6人	21人	400人

■ 技能検定 年間受検者数

平成28年度		平成27年度		平成26年度	
受検者	合格者	受検者	合格者	受検者	合格者
20人	20人	25人	24人	20人	20人



３級技能検定は研修カリキュラムの1つ

1級及び２級の技能検定に合格した者にはなんらかの表彰が必要なのではないかとの意見があり、10年ほど前から、社内に1級及び2級の合格者には奨励金を支給する制度が設けられることになりました。また、技能五輪全国大会で入賞又は優勝した場合や、技能五輪国際大会で入賞した場合などは、報奨金はもちろん、特別な表彰が行われます。技能検定の受検料については、すべて会社で負担しています。特に３級の技能検定は、新入社員研修のカリキュラムの一環とされていますので、受検もこの研修センタでできるようになっています。

みな不合格になりたくないという意識を持っており、自主的に勉強しようという雰囲気ができています。ここで差をつけられたくはないという意欲が強くうかがえます。最初の３級の技能検定で失敗したり、不合格になったことで意欲を失ってしまうようでは、技能五輪への挑戦はとても望めません。最初の関門をきちんとクリアしていくことが大事です。

1級、2級の技能検定も100％近い合格率を維持

1級及び２級の技能検定の合格者数は少ないですが、合格率は100％にかなり近いところを維持しています。1級の技能士というとかなりレベルが高く、一定期間以上の実務経験を要求されるだけに、現場で指導できるくらいの能力になっています。また、技能五輪で入賞すると、実技試験が免除されたりしますが、学科試験は免除されないので、合格するには相当な努力が要求されると思います。

1級及び２級の技能検定に挑戦しようとする者にも、会社でバックアップをしており、この研修センタで受検のための指導をしています。研修センタには、技能五輪のための指導者だけで３名おり、そのほかの研修のための指導者が７名で、合計10名の指導スタッフがいます。

1級技能士、2級技能士はレベルに応じて社内で活躍

技能士の資格を持っている者とそうでない者との違いというのは、少なくとも３級のレベルではそれほど差がないように思います。しかし、1級の技能士となると、現場では指導者として積極的に活躍しています。２級の技能士というのは２年以上の実務経験が必要ですので、これに合格した者は、明らかに３級の場合と違って、自信を持って現場で仕事に取り組んでいます。そういう者が現場にいるのはまわりの若い従業員などには大きな目標となり、良い意味での刺激となっていると思います。

1級の技能士の資格を持っている者は、やはり社内でもそれ相応の仕事をしてくれます。第50回技能五輪国際大会で金メダルをとった1級技能士の者は、この研修センタで何年間か指導者をしていましたが、今年海外に配属されました。この技能士の場合は、やはりある種の鋭さがあり、一芸に秀で

る者は多芸に通ずるではありませんが、海外派遣で必要となる英語も一生懸命に勉強してかなりのレベルにまで達しています。この例に限らず、1級、2級という技能士の資格を持った者は、社内でもきちんとレベルに応じた活躍をしています。

3級技能士の資格を基本に現場で実務経験を

この研修センタができたのは十数年前ですが、技能五輪への挑戦だけに限らず、新規に採用された者は、まずこの研修センタで情報配線施工の3級の技能士の資格を取得して、国家資格に合格したという自信を持ちながら現場で実務経験を積んでいってもらいたいです。会社としては、このことを毎年継続していくことが非常に大切だと思います。そして、最初にここで研修を受けたことを基本に現場で成長し、さらに上のレベルを目指したり、技能五輪に挑戦してほしいです。

就職する前の学生のときでも、チャンスがあればできるだけ資格をきちんと取っておくことはよいことだと思います。そしてそれを活用できる仕事を見つけていけば、自分の活躍する世界が開けていくと思います。そのときに大切なのは、やはりやる気をもって取り組むことです。積極的なやる気をもってさえいれば、やがては技能五輪の全国大会や国際大会などにも挑戦する機会が出てきます。

やる気をもって何事にもあきらめない気持ちが大事

とりあえず入ってみようという気持ちだけではダメでしょう。やはり、やる気をもって、ある意味では負けん気を強く持つくらいで取り組んでいかなければ、技能五輪で金メダルをとるくらいのところまでに昇っていくことはかなり難しいと思います。このやる気を燃え上がらせて、何事にもあきらめない気持ちを持ち続けること、これが大事ではないかと思います。

当社では情報通信関係の幅広い職種がありますし、情報通信に限らず環境事業、太陽光発電事業、システムソリューション関係などにも取り組んでいます。通信設備工事のアクセス分野だけに限らずいろいろな分野にチャレンジできます。ぜひとも当社でさまざまな分野でのスキルアップに挑戦していただきたいです。

株式会社協和エクシオで活躍する
－ PROFESSIONAL SKILLS －
〝世界で戦える技能〟

技能士

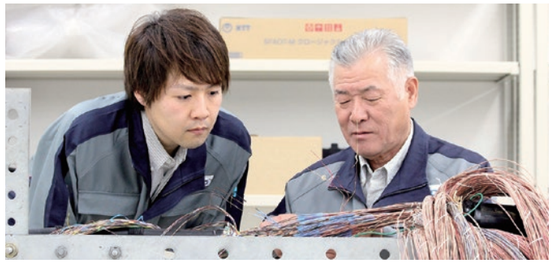
アクセスエンジニアリング本部
東京エンジニアリング部門主任
山口 雄基（やまぐち ゆうき）

1級技能士の資格を取ったことで、基礎を確実に身につけることができた

はじめての技能五輪で失敗、そして奮起

私は高校を卒業するときは美容師になりたいと考えていました。美容師の専門学校に行く費用などは自分で出したいと考え、とりあえずは2年くらい就職してお金をためてから専門学校に行こうと考えていました。そして入社したのがこの会社でした。

入社して研修を受けていたとき、技能五輪全国大会で情報配線施工の職種ができましたので、佐川所長から技能五輪全国大会に挑戦してみないかと言われました。1年目の競技は2人1組で出場するものでしたので、先輩のグループと自分たちのグループで挑戦することになりました。本番では、自分たちのグループは取り返しのつかないミスをおかしてしまったため悔しい思いをしました。このままでは辞められないと思って奮起しました。翌年からは、1人競技に変わりましたので、ぜひもう一度挑戦させてもらいたいと思い、会社に直談判をして出場させてもらいました。この時点では、すでに美容師になりたいという気持ちは消えてしまって、この道を究めていこうと考えていました。



技能五輪国際大会で金メダルを獲得後1級技能士へ

技能五輪国際大会で金メダルをとったあと現場に配属されました。社内的には、技能五輪国際大会で金メダルをとったということが知られていましたが、社外的には、技能五輪国際大会のことすら知らない方が多く、あまり評価されることもありませんでした。そこで、1級技能士の資格を取って、ちゃんとした技術を持っているのだということを社会的に認知されるようになりたいと考えました。

私自身1級の技能士の資格を持っているとはいえ、技術のほうは日々進歩していきますので、自分自身でも勉強していかなければならないところが多いです。しかし、1級技能士の資格を取ったことで基礎を確実に身につけることができましたので、新入社員や中堅の人たちにもその基礎を指導することができるようになりました。やはり基礎を知らないと、教えることもできないと思います。

より上のレベルを目指すことは自分自身にもプラスになる

当社では、新入社員はみなこの研修センタで基礎的な訓練を受けてから現場に配属されますので、一定程度のスキルを身につけてきます。しかし、現場ではそれぞれ状況が異なりますので、現場ごとの対応能力や応用力が優先されます。その点は、後輩たちにきちんと指導していかなければいけないと考えています。

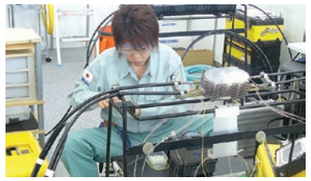
私は、3級の技能資格を取ったあと、より上のレベルを指すことは自分自身にもプラスになることだと考えて、積極的に挑戦してみました。技能五輪国際大会で金メダルをとってから1級の技能検定を受検しました。私が受検した当時は、技能五輪で金メダルをとっても1級の技能検定で実技試験が免除される制度はありませんでしたが、技能五輪で金メダルをとれれば実技の試験はそれほど問題はないのではと考えていました。むしろ、学科試験のほうがかなり難しく、受検の際には必死になって勉強しました。

勉強をしていくうちに自分の進みたいところも絞り込める

高校生であれば、勉強もきちんとしながら、取れる資格は積極的にとっていくようにすべきです。資格をとるため勉強をしていくうちに、自分の進みたいところも絞り込めます。そのなかで自分のやりたい仕事を見つけていけばよいと思います。

大切なことは、先輩の話をよく聞いて、日々勉強を続ける努力を怠らないことです。そうすれば、2級の技能検定に合格することはできるのではないかと思います。そこからさらに意欲があるのなら、1級にチャレンジしていくことをお勧めしたいです。

当社では、海外で働くチャンスもたくさんありますので、海外にチャレンジしてみたいと思う人はぜひ当社でそのチャンスをつかんでください。また、通信関係に興味がある人はもちろん、手に職をつけたいと思う人たちも、ぜひ当社でチャレンジをしてもらいたいです。



技能競技大会とは

技能競技大会とは･･･
若者の就業意欲の喚起や円滑な技能継承のため、技能五輪全国大会を始めとする以下の各種競技大会が開催されています。

技能五輪全国大会

技能五輪全国大会は、原則23歳以下の青年技能者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会です。次代を担う青年技能者に努力目標を与えるとともに、大会開催地域の若年者に優れた技能を身近にふれる機会を提供するなど、技能の重要性、必要性をアピールする役割を担っています。
なお、国際大会が開催される前の年の大会は、国際大会への派遣選手選考会をかねています。

技能五輪国際大会

技能五輪国際大会は、正式には、国際技能競技大会（World Skills Competition)と呼ばれ、原則22歳以下の青年技能者による国際的な技能競技大会です。
この大会は、参加各国における職業訓練の振興と青年技能者の国際交流、親善を図ることが目的とされています。
2年に1回開催され、日本代表選手の選考は、国際大会が開催される前の年に開催する技能五輪全国大会において行われています。

技能グランプリ

技能グランプリは、熟練技能者が技能の日本一を競い合う大会です。
1級技能士などが年齢制限に関係なく熟練技能を競う全国規模の技能競技大会であり、大会の優勝者には、内閣総理大臣賞、厚生労働大臣賞などが贈られます。

若年ものづくり競技大会

若年者ものづくり競技大会は、原則として、技能を習得中の企業等に就業していない20歳以下の若年者を対象とした競技大会です。若年者のものづくり技能に対する意識を高め、技能を向上させることにより若年者の就業促進を図り、併せて若年技能者の裾野の拡大を図ります。

大会に関する情報や競技結果などは、ホームページをご覧ください。

http://www.waza.javada.or.jp/

http://www.javada.or.jp/

都道府県技能士会・連合会一覧

	技能士会	住所	TEL	FAX
1	一般社団法人 全国技能士会連合会	〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町13番地　東京洋服会館6階	03-5946-8791	03-5946-8792
2	一般社団法人 北海道技能士会	〒003-0005 札幌市白石区東札幌5条1-1-2　道立職業能力開発支援センター内	011-815-4845	011-825-2391
3	青森県技能士会	〒030-0122 青森市野尻字今田43-1　青森県職業能力開発協会内	017-738-5561	017-738-5551
4	岩手県技能士会	〒028-3615 岩手県紫波郡矢巾町南矢幅10-3-1　岩手県立産業技術短期大学校内	019-613-4620	019-613-4623
5	宮城県技能士会連合会	〒981-0916 仙台市青葉区青葉町16-1　宮城県職業能力開発協会内	022-271-9260	022-271-9242
6	秋田県技能士会連合会	〒010-1601 秋田市向浜1-2-1　秋田県職業訓練センター内	018-863-6635	018-866-7853
7	山形県技能士会	〒990-2473 山形市松栄2-2-1　山形県職業能力開発協会内	023-644-8562	023-644-2865
8	福島県技能士会連合会	〒960-8043 福島市中町8-2　福島県自治会館内5F	024-523-1755	024-523-5131
9	茨城県技能士会連合会	〒310-0005 水戸市水府町864-4　（茨城県職業人材育成センター内）茨城県職業能力開発協会内	029-221-8647	029-226-4705
10	栃木県技能士会連合会	〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10　栃木県庁舎西別館	028-643-0811	028-643-2357
11	一般社団法人 群馬県技能士会連合会	〒372-0801 伊勢崎市宮子町1211-1　群馬県職業能力開発協会内	0270-23-7761	0270-21-0568
12	埼玉県技能士会連合会	〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5　埼玉県浦和合同庁舎内	048-833-5923	048-749-1957
13	千葉県技能士会連合会	〒261-0026 千葉市美浜区幕張西4-1-10	043-350-5124	043-296-1186
14	一般社団法人 東京都技能士会連合会	〒162-0844 新宿区市谷八幡町13番地　東京洋服会館6階	03-6228-1921	03-6228-1931
15	神奈川県技能士会連合会	〒231-0026 横浜市中区寿町1-4　かながわ労働プラザ6F	045-633-5417	045-633-5421
16	新潟県技能士会連合会	〒950-0965 新潟市中央区新光町15-2　県公社総合ビル4F 新潟県職業能力開発協会内	025-283-2155	025-283-2156
17	富山県技能士会連合会	〒930-0094 富山市安住町7-18　安住町第一生命ビル3F 富山県職業能力開発協会内	076-432-8870	076-432-9888
18	一般社団法人 石川県技能士会	〒920-8580 金沢市鞍月1-1　石川県商工労働部労働企画課内	076-225-1533	076-225-1534
19	福井県技能士会連合会	〒910-0003 福井市松本3-16-10　福井県職員会館ビル4F 福井県職業能力開発協会内	0776-27-6360	0776-27-2060
20	山梨県技能士会連合会	〒400-0055 甲府市大津町2130-2　山梨県職業能力開発協会内	055-243-4916	055-243-4919
21	長野県技能士会連合会	〒380-0836 長野市南県町688-2　長野県婦人会館3F	026-234-9050	026-234-9280
22	岐阜県技能士会連合会	〒509-0109 岐阜県各務原市テクノプラザ1-18　岐阜県人材開発支援センター内	058-384-1002	058-384-1002
23	一般社団法人静岡県技能士会連合会	〒424-0881 静岡市清水区楠160番地	054-346-9361	054-346-9362
24	公益社団法人愛知県技能士会連合会	〒451-0035 名古屋市西区浅間2-3-14　愛知県職業訓練会館4F	052-524-4423	052-524-1023
25	一般社団法人三重県技能士会	〒514-0004 津市栄町1-891　吉田山会館1F	059-222-3145	059-253-3173
26	滋賀県技能士会	〒520-0865 大津市南郷5-2-14　滋賀県職業能力開発協会内	077-533-0850	077-533-3909
27	京都府技能士会連合会	〒612-8416 京都市伏見区竹田流池町121-3　京都府立京都高等技術専門校(京都府職業能力開発協会) 内	075-642-5075	075-642-5085
28	一般社団法人大阪府技能士会連合会	〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-1　大阪本町西第一ビルディング6F	06-6534-7010	06-6534-7511
29	兵庫県技能士会連合会	〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-30　兵庫勤労福祉センター内	078-371-2101	078-371-2095
30	奈良県技能士会連合会	〒630-8213 奈良市登大路町38-1　奈良県中小企業会館内	0742-24-4127	0742-23-7690
31	和歌山県技能士会連合会	〒640-8272 和歌山市砂山南3-3-38　和歌山技能センター内	073-425-4555	073-425-4773
32	鳥取県技能士会連合会	〒680-0845 鳥取市富安2-159　久本ビル5F 鳥取県職業能力開発協会内	0857-22-3494	0857-21-6020
33	島根県技能士会連合会	〒690-0048 松江市西嫁島1-4-5 ＳＰビル2F	0852-23-1707	0852-22-3404
34	岡山県技能士会連合会	〒700-0824 岡山市北区内山下2-3-10　アマノビル3F 岡山県職業能力開発協会内	086-225-1548	086-234-1806
35	広島県技能士会連合会	〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47　県情報プラザ5F 広島県職業能力開発協会内	082-245-4020	082-245-4858
36	山口県技能士会連合会	〒753-0074 山口市中央4-3-6　山口県職業能力開発協会内	083-922-8646	083-922-9761
37	徳島県技能士会連合会	〒770-8006 徳島市新浜町1-1-7　徳島県職業能力開発協会内	088-662-5366	088-662-0303
38	香川県技能士会連合会	〒761-8031 高松市郷東町587-1　香川県職業能力開発協会内	087-882-2854	087-882-2962
39	愛媛県技能士会	〒791-1101 松山市久米窪田町487-2　愛媛県産業技術研究所 管理棟2F	089-993-7301	089-993-7302
40	一般社団法人福岡県技能士会連合会	〒813-0044 福岡市東区千早5-3-1　福岡人材開発センター内	092-661-0714	092-671-1354
41	佐賀県技能士会連合会	〒840-0814 佐賀市成章町1-15　佐賀県職業能力開発協会内	0952-24-6408	0952-24-5479
42	長崎県技能士会連合会	〒851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷547-21　技能・技術向上支援センター内	095-894-9971	095-894-9972
43	一般社団法人熊本県技能士会連合会	〒861-8038 熊本県熊本市東区長嶺東8-1-88 3F	096-389-1611	096-285-1671
44	一般社団法人大分県技能士会連合会	〒870-1141 大分市大字下宗方字古川1035-1　大分職業訓練センター内	097-542-6849	097-542-0996
45	宮崎県技能士会連合会	〒889-2155 宮崎市学園木花台西2-4-3	0985-58-1553	0985-58-1553
46	鹿児島県技能士会連合会	〒892-0836 鹿児島市錦江町9-14　鹿児島県職業能力開発協会内	099-226-3240	099-222-8020
47	一般社団法人沖縄県技能士会連合会	〒900-0036 那覇市西3-14-1　沖縄県職業能力開発協会内	098-863-1116	098-866-4964

国家検定
「技能検定」のご案内

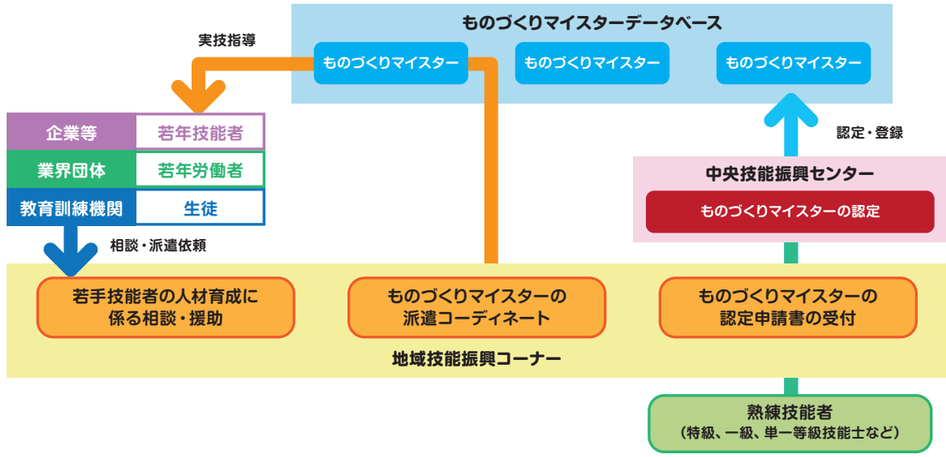
技能検定とは、働くうえで身につける、また必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度で、試験に合格すると合格証書が交付され、「技能士」と名乗ることができ、平成27年度までに延べ602万人の技能士が誕生しています。
技能検定は、機械加工、建築大工など各都道府県で行われている111職種と、機械保全、ファイナンシャル・プランニングなど指定試験機関で行われている15職種で実施され、職種により前期・後期で行います。
また、試験は、実技試験と学科試験で行い、技能のレベルにより特級、1級、2級、3級に区分するもの、単一等級として等級を区分しないものがあります。
詳しくは、技能検定制度等に係るポータルサイト「技のとびら」（次ページ）をご参照ください。

厚生労働省

「ものづくりマイスター制度」のご案内

「ものづくりマイスター制度」では、建設業及び製造業における100を超える職種を対象に、高度な技能を持ったものづくりマイスターが、技能検定や技能競技大会の課題を活用し、中小企業や学校において広く実技指導を行い、技能尊重気運の醸成を図るとともに効果的な技能の継承や後継者の育成を行っています。また、小中学校等での講義や「ものづくり体験教室」等により、「ものづくりの魅力」を発信しています。

ものづくりマイスター制度の仕組み



ものづくりマイスターの派遣コーディネートは、地域技能振興コーナーが無料で行います。また、ものづくりマイスターの派遣費用や指導に係る材料費は、規定の範囲内で、地域技能振興コーナーが負担します。派遣コーディネートの相談に関する詳細は、お近くの地域技能振興コーナーにお尋ねください。

詳しくは
ものづくりマイスターデータベース　検　索

技のとびら

技能検定制度等に係るポータルサイトのご案内

「技のとびら」では、身近でありながら知らない多くの仕事（技能士の職種）について分かりやすく紹介しているほか、技能検定試験、技能競技大会、地域で行う技能イベント等の詳細もご紹介しています。

詳しくは
技のとびら　検　索

一般社団法人 全国技能士会連合会
http://www.takuminowaza.net

JAVADA
JAPAN VOCATIONAL ABILITY DEVELOPMENT ASSOCIATION